

二葉

東京支部だより

第 7 号

平成13年4月1日発行
諏訪二葉高等学校同窓会
東京支部編集委員会

題字 今井綾子 (高女28回)



新世紀へのメッセージ

—「温故知新」—

支部長 千田洋子 (高校9回)

新世紀の幕開けという記念すべき年、支部だより『二葉』第七号をお届けいたします。

いま、私の手許に東京支部活動の歴史を収めたずっしりと重い記録・資料があります。これは、歴代の支部長から支部長に引き継がれてきた貴重な財産。既にセピア色に変色した資料の隅々、一字一句に至るまで先輩方の情熱や苦勞の足跡が凝縮され、綴られていて、思わず目頭が熱くな

り頭が下ります。時は今、新しい世紀を迎えました。日本社会は過去百年にも増して大きく変貌しつつあります。社会構造、IT革命等々その変化の速さも、スケールも加速しています。数年後には、コンピュータがテレビ並に各家庭に普及するともいわれ、交通・情報伝達の革命による、全国画一化と流動化が急速に進んでいます。この中で人々の生活の在り方、

祈り申し上げます。

幸多き日々でありますようお祈り申し上げます。

価値観、郷土への想いも否応なく変わってきています。この変革の時を迎え、私たちの同窓会がどうあるべきか、これからの会を支えるべきか、会員にとつて、より魅力とメリットのある同窓会とは、というテーマについて、年度を越えて継続的な検討ができるシステムが必要ではないか、と考えます。先輩方が後輩のために道を切り拓き踏み固めて下さったように、私たちもまた同窓会の灯を護り末永く発展させていきたいものです。

本部から支部へ、支部から本部へ

—連携による活性化を—

前支部長 宮川秀世 (高校8回)

皆様、お元気でいらつしやいますか。二十一世紀の幕開けが支部だより第七号発行となりお慶び申し上げます。



平成十一年度は、先年より受け継いで、支部の組織づくり「活発な活動と交流」を礎に、より具体的な方向で実践してきました。まず特筆すべきは、

本部との連携活動、そのひとつが「校舎お別れ会」でした。

役員、幹事の方々の誠意と創意溢れる取り組みにより、支部から40数名もの参加を得

ると確信しています。

和気藹々の交流会も実現、更には、本部をも勇気づける力となりました。これは、本部の意向を支部としてどう広げ、実践していくかという方向性を示したように思います。一方では、支部活動が活発になるように『同期会の活性化に向けて』の資料を作成したり、幹事会で情報交換をした事で、同期会の動きの輪が広がって来ています。最大支部⇨東京支部のうねりは、必ず本部を活気づけるものになると確信しています。

平成13年 東京支部総会のお知らせ

☆日時：平成13年5月26日(土)10:30~15:30
☆会場：日本青年館4F東洋軒 (TEL03-3475-2525)
講演：『良寛と宮芳平』
講師 竹中正夫先生
(同志社大学名誉教授、著書『天龍の旅人』)
◇詩人宮芳平の詩の朗読 ◇画家宮芳平の作品紹介
昼食：パーティー 会費5,000円

本部定期総会のご案内

日時 平成13年5月12日(土)
会場 シティホテル成田屋
TEL 0266-52-4500
講演講師 藤原正彦先生
(お茶の水女子大学教授)
申込み 母校事務局 (TEL 0266-52-4628)



諏訪二葉高等学校
同窓会長

清水 愛子
(高校7回)

東京支部の皆様お褒りなく
お過ごしのことと存じます。
支部総会の折は大変お世話様
になりありがとうございます



諏訪二葉高等学校
校長

小野 仁志

全山の木々が美しく自己ア
ツピールする紅葉の時期とな
りました。東京支部の各位
には、益々お元気で活躍の

東京支部だよりに寄せて

た。広い会場一杯の二七〇名
からのご出席に圧倒されまし
た。又その総会をテキパキと
進めていく小気味良き進行の
様に心より敬意を表します。
この夏は記録的な猛暑に続
く残暑、その後の集中豪雨に
よる被害等、人間の力の及ば
ない自然の脅威を感じます。
皆様には、日頃同窓会に多
大なるご協力とご厚情を賜り、
誠にありがとうございます。
母校も六月より解体が始まり
七十年近い歴史と同窓生の青
春の夢と憧れ、汗と希望の詰

った校舎が姿を消し、九月か
らは二十一世紀を見据えた建
築技術の粋を集めた新築の槌
音が始まりました。今までの
校舎に近い設計で四階建になり、
同窓生の皆様がいつ訪ねられ
ても違和感なく眺められるそ
うです。学校・PTA・後援会・
同窓会の四者による校舎改築
実行委員会が発足し、二十一
世紀に諏訪二葉高等学校ここ
にありと誇り得るすばらしい
記念品を贈るべく、皆様へご
協力をいただくことになりま
すので、どうぞよろしくお願

い申し上げます。
昭和六十二年より男女共学
になり、平成二年には男子も
同窓会に入会されて、今では
八〇〇名近くになりました。
これからは、男性も出席しや
すい魅力ある同窓会にしてゆ
くことが望ましいことです。
平成十四年校舎落成の時も
今年度と同様に二葉高校への
入学希望者が多く(近隣で最高
の競争率を示した)、すばらし
い後輩が続いてくれますよう
願っています。
東京支部の皆様益々のご健
勝心よりお祈り申し上げます。

こととお喜び申し上げます。
昨年、今年と支部総会に出
席させていただき、その盛衰を
活気に感激させられました。
これも長い間の関係各位の御
苦勞・御工夫の賜と信じ、深
く敬意を申し上げます。

そして、二葉には世代を超
えて心の糸をつながせる何か
があることを確信しました。
二葉は単に思い出・郷愁なの
ではなく、明日への勇氣・活
力なのだ信じました。時間
と空間を超えての変らぬ青春
のエネルギー再生産の場だと

思いました。東京支部のいよ
いよのご発展をお祈りします。
簡単に学校の近況を記します。
校舎改築は順調に進んでいます。
プレハブ校舎での夏もクーラ
ーのお陰で無事乗り切ること
ができ、現在、基礎の杭打ち
も終り、本工事中着工間近か
となっております。来年十二月の
新校舎完成への期待は強まっ
ており、先行行われた中学生
の高校体験入学で、二葉高校
へは諏訪郡はもとより、中信・
伊那から八百余名が来校し、
私共もびつくりしました。皆

真剣でした。在校生も頑張っ
ています。一例ですが、十月
四日に霧ヶ峰までの強歩大会
がありました。男女共学後に
始まった行事ですが、標高差
八百米の登り・下りを男子28K、
女子24Kを走り歩きます。完
走率は97%でした。どんなに
苦しくても弱音を吐かないと
いう心意気は綿々と引き継が
れています。新しい校舎にふ
さわしい教育・伝統・魂の創
造を目ざして参る覚悟ですので、
改築記念事業への協力等、変
らぬご支援をお願い致します。

☆☆平成10.11年度卒業生の動向☆☆

1) 最近の進路状況 ()内は男子

卒業年度	卒業生 総数	進学		就職		(浪人・家居)	
		人員	比率	人員	比率	人員	比率
平成10年度	279 (104)	217 (64)	77.8%	6 (3)	2.1%	56 (37)	20.0%
平成11年度	277 (99)	219 (66)	79.1%	0 (0)	0.0%	58 (33)	20.9%

2) 最近の学校別進学状況

卒業年度	国立大	公立大	私立大	国公短	私立短	専門	その他	計
平成10年度	21	5	89	14	38	47	3	217
平成11年度	15	7	115	5	34	42	1	219

恩師だより

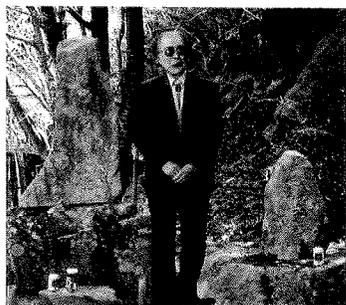


我が懐かしの二葉

諏訪坂 勲一

二葉に転任が決まった頃、二葉生は乙女ながら質実剛健個性に富み、批判精神が鋭くもたもたしているときやられるぞと聞き、もつと気楽な学校にやつて貰えばよかつたのにと逼迫感に襲われました。しかし二葉乙女方は噂とは相反して、まことに優しく温かく私の欠陥をいつも庇ってくれ、女子名門校たるにふさわしい美風を確立していましたね。

着任早々、一年生は学年劇で藤森先生の『若き啄木』を演じたが、今にして思えば、もつと遠慮なくしつかり指導すれば良かったと悔やまれてなりません。三年生は『十三夜』を演じたが、恥ずかしながら一葉作品を不勉強で、その後になつて真価に触れた次第です。清掃係として皆さんと共に床を磨いた快い思い出、全校クラスマツチで優勝できた皆さんの笑顔、弁論大会で熱弁入賞で紅潮した感激のシーン、夢科宿泊遠足の完歩とファイヤーストームの熱気、夢の海、諏訪湖一周マラソン完走の快感、スポーツ各クラブの国体での大活躍、スケートの全国優勝等と栄光の思い出は尽きません。大先輩の作家平林たい子さんのお口添えにより、幸田文さんのお話を拝聴した感激が忘れられません。



諏訪坂勲一先生プロフィール

昭和29年〜38年在任

現在、地域の婦人方の古典学習会(源氏物語、枕草子等の講読)の指導にあたる。

著者 詩歌文集「老梅の春」「泉鏡花作眉かくしの霊考」他
写真は木曾神坂湯舟沢にある吉田兼好碑の前にて

文博、医博としてご活躍の秀れた卒業生にも恵まれ、堅実な校風は伝統となつて、脈打ってきました。

老齢を加えた私の心に終生残る苛烈な痛みは、学業、クラブ等で優れた成果を収めながら早世された乙女方のことです。彼女らの無念を思い、ご冥福を祈ります。

二葉から始まった

体操五十年

岩波 優子
(旧姓 高橋)



体育教師として二葉高校にお世話になつたのは昭和二十八年四月でした。

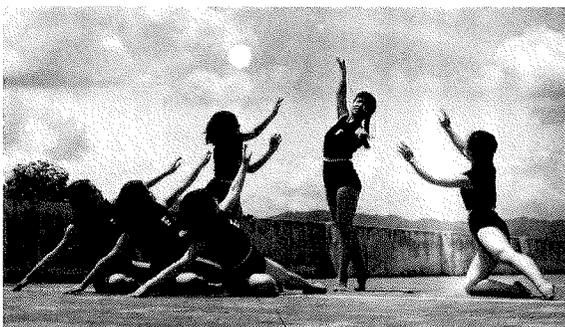
女子教育には音楽体操が大切である、という恩師の教えを守り、一生懸命に全校にダンスの授業ドイツ体操の呼吸を使った緊張解禁の連続自然運動をした懐かしい思い出が蘇ってきます。

とにかく若く、生徒の皆様とあまり年も違わない私でしたので、何の疑いもなく自分の思いを押しつけ、夢中で授業をやつた様に思い出します。人は皆生まれた時から、音楽を聴けば自然に体を動かし手を叩き喜ぶ本能を持つているはずですが、実際には、高校生くらいになると体を動かしたり表現したりすることに、恥かしさや抵抗を感じ、ダンスは苦手という方が結構いたと思います。そんな高校生にも、ぜひ動くことの楽しさ大切さを感じて頂きたいと、いろいろ

るな要求をした記憶があります。二葉の生徒は、真面目で素直で打てば響く素晴らしい生徒たちでした。他教科と同じくダンスの復習をしているという職員室の評価を頂いたことなど、皆様の活き活きとした顔を懐かしく思い出しています。

社会人となられた卒業生が、まだ経験浅い頃の私の授業を思い出して、生活の中に取り入れて下さっている話等伺うと、何より嬉しく感じます。

私現在六八才ですが、自分も含め、急速に進んだ高齢化社会に向かい動くことの大切さを痛感し、細々ですが地域の健康体操の指導を続けています。同窓生の皆様もどうぞ生活の中に動くことを習慣づけ、生涯健康に過ごされます様に、二葉高校同窓会の発展と共に祈り申し上げます。



“昭和29.7.20
二葉祭記念
屋上にて”

坂岩 宮谷 澁谷 堀口
前田 村田 岩波

岩波優子先生プロフィール
昭和27年新卒で着任、在勤中体操競技県代表として国体、全日本連続出場に導く。

昭和52年より健康体操クラブを主宰し現在に至る。平成9年20周年を記念して「健康体操」出版、川崎在住。

総会報告

—平成11年—
副支部長 小林郁子 (高校8回)

東京支部
総会は、さわやかな五月晴れの平成十年五月二十五日(火)に日本青年館で、下記の通り開催されました。出席者は、二六一名(来賓四名、客員一名を含む)

挨拶の中で、北山支部長は、二十一世紀に向けての東京支部同窓会基盤強化を、来賓の小野学校長、高林会長は共に校舎改築事業への協力を要請されました。

講師は大村はま先生。諏訪高女在職中に作曲された「うらら春の日難まつり」の歌声の中、登壇されました。「七十年間教え子として言葉を粗末にしたことはございません。」先生の初めての教え子、中根志づさんのお礼の言葉です。教え子に両手を支えられて退場する先生に送られる惜しみない拍手。これぞ二葉の伝統の原点と思いました。

「誠実さと意気込みを感じる総会でした。」こんな素敵な感想も寄せられています。二十一世紀に向けて心を一つにするような総会でした。

- 第一部 定期総会**
- 一、開会のことば 司会 副支部長 宮川 秀世(高8)
 - 二、校歌斉唱(一、三、五番) 副支部長 齊藤三千代(高7)
 - 三、物故者への黙祷 支部長 ビアノ伴奏 島川真知子(高21)
 - 四、支部長挨拶 支部長 北山 千恵(高7)
 - 五、来賓・客員の紹介 支部長 北山 千恵(高7)
 - 六、来賓 小野仁志学校長 高林徳枝同窓会会長 宮本せつ子同窓会副会長
小松一信先生 野村トモ先生
 - 七、議事
 - 1 平成10年度事業報告 議長 藤森 博子(高7)
 - 2 新会員、若い世代への呼びかけ―名簿、会報の発送
 - 3 維持費納入金額が初めて二百万を越えた―ご協力に感謝
 - 4 平成10年度決算報告 監査 守屋 静子(高11)
 - 5 会計監査を会則の中に入れる 池田 康子(高9)
 - 6 新役員・会計監査の承認並びに新役員代表挨拶 副支部長 齊藤三千代(高7)
 - 7 平成11年度事業計画案 支部長 北山 千恵(高7)
 - 8 平成10年版名簿「追加・訂正名簿1」を発行 副支部長 宮川 秀世(高8)
 - 9 旧役員退任挨拶 副支部長 小林 郁子(高8)
 - 10 158全て承認 可決 支部長 北山 千恵(高7)
 - 11 議長解任 記録 西村真由美(高16)
 - 12 閉会のことば
 - 八、客員より紹介 鮎沢 渡先生 立石 徹先生
 - 九、講演会 ―昼食・歓談― 司会 新副支部長 千田 洋子(高9)
 - 十、講演 大村 はま先生
 - 十一、茶話会 副支部長 齊藤三千代(高7)
 - 十二、花束贈呈並びに代表挨拶 司会 副支部長 藤森 政子
 - 十三、白き翼 今日の日はさようなら 高女28回生(十名) 代表 小口 禎子
 - 十四、閉会のことば 副支部長 島川真知子(高21)
 - 十五、閉会のことば 副支部長 小林 郁子(高8)

平成10年度諏訪二葉同窓会東京支部決算報告書

(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

1 収入の部			2 支出の部		
項 目	予 算	収入金額	項 目	予 算	支出金額
1 前年度繰越金	1,843,576	1,843,576	1 総務習等謝礼	180,000	180,000
2 雑持費	1,800,000	2,695,442	2 会場費用・諸経費	220,000	128,337
3 雑収入	424	4,170	3 名簿基金	200,000	500,000
収入合計	3,644,000	4,543,188	4 会報作成費	250,000	231,833
※維持費は払込手数料が差し引かれています。			5 形 慰 金	10,000	40,741
名簿基金			6 役員通信費・交通費	110,000	113,115
1 名簿基金	222,985	前年度繰越金	7 役員会費用	100,000	114,377
2 寄付金	10,000		8 幹事会費用	460,000	395,992
3 特別積立金	300,000	名簿郵送費個人負担分差額積立金	9 通 信 費	500,000	475,919
4 平成10年度積立金	200,000		10 印刷費・コピー代	40,000	28,915
合計	732,985	次年度繰越金	11 事務用品	20,000	20,157
上記の通りご報告いたします。			12 渉二葉関係	52,000	51,080
平成11年3月31日			13 外連合同窓会	56,000	85,000
平成10年度会計保 守屋 静子 ㊟			14 雑 費	300,000	57,368
竹内 美穂 ㊟			支出小計	2,498,000	2,422,834
			15 次年度繰越金		2,120,354
			支 出 合 計		4,543,188
			現金、郵便貯金、定期郵便貯金		
			[総会東洋軒会場費用等]内訳		
			・当日会費入金他 1,065,000 (5000×206名)		
			・東洋軒へ支払い		
			会費代 1,106,742		
			その他 86,595		
			差額(本会計より支出分) 128,337		
			現金、定期郵便貯金		

上記は会計監査の結果間違いありません。
平成11年5月7日
平成10年度会計監査 池田 康子 ㊟ 渡辺さと子 ㊟



年度11年成平
要演講

「子供を育てながら
育てられながら」

大村はま先生



大村はまでございます。あ

と少して九十三才になります。諏訪高女の同窓会は私の在職中から少し変わって、ただ思い出話などをし合うだけでなく、ちよつと固いお話を聞くのが伝統でした。今日は50歳ぐらいの方が見えるのかと思つていましたら、私のよくなおばあさんの話を聞かせてとこの盛会です。この会は諏訪高女出身の目ざめた女性の集りということですね。

子供を知ること

私の書いた「教室を生き生き」という本の始めに：子供を知ることがすべての始まりで、本当に子供を知らなければ教育そのものが始まらないと書いてあります。一人一人を育てるのが教育ですから、そ

の人をびしつととらえていなければ教育はあり得ないので。私は一九八〇年に学校をやめました、その頃までは考えられなかつたような怖いところが今は起つています。教師も親も、子供を全然わかつていないところ、問題があるように思っています。

それではどうやって知るか。文部省は一对一で話し合う時間をとることと言います。私は平教員で子供と一緒に暮して五十二年もやってきたので子供のことがわかつてあたりまえですが、教師の方から何かを聞き出そうとしても、その子供の本当の気持はとらえられないと思つてます。教師の方からいろいろ話し出して話し合ひのやわらかな雰囲気をつくる。その教師のつくり出している雰囲気の中で何か浮びあがるように自然に話し出してくる、そのことばの中に子供の真実をとらえる。これが私の工夫でした。そういう雰囲気を作るために、私からいろいろ話をすること

した。生活の中で拾つた、どこか身につつまされるというか、誰かに話したくなるというか、心にしみるころのある話です。

下手な字の効用とカメラの話

私の家の近くに、しもた屋の玄関先を利用した八百屋さんがありました。秋になって、まだめづらしかつた巨峰が並べられそこに立て札が立つていました。それにあどけないかたかなで「オネエサンノツクツタブドウ、アマイ、アマイ」とあつたのです。やつ

と書いたようなこの字が何とも言えず私をなごませて、信州小諸のブドウ畑のオネエサンの姿が目に見えるようでした。そして、その下にあるぶどうが急に食べたくなりました。次はカメラの話です。私が初めてヨーロッパに行った時、使い慣れた粗末なカメラの他に、気張つてアサヒペンタックスを買つてフィルムもどつさり持つて行きました。それが、使い慣れたカメラで撮つたのはとてもきれいに撮れているのに、アサヒペンタックスの方は全部ブレていました。が、つかりした私に写真屋さんが「先生ね、カメラつてのはその人の腕にあつたのがよく撮れるんですよ。」とにつこりしました。この話は子供が喜ぶ

のです。その人に合つたという所が身につつまされるのでしよう。そして子供が自分でも何か話したくなつて「あのね。」と話し出す。そしたらこちらは本気で一生懸命聞く。何かの断片の話でも、そこから子供の本当の気持を聞き取るのは教師の腕前です。

子供のある時代だけの姿、成長期の屈折のある心理を知る努力、うんと知恵をしぼつて対処して欲しい。そして人を育てる人としての職業意識をしつかり持つて教育にあつて欲しいと思つています。

常識的にためになる話と考えられるところを越えて、工夫して子供をとらえることが本職の仕方じゃないかと思つています。時代も大きく変わわり、戦争前と後とは子供も全然違つてきていますから、教師のあり方も考えなくてはいけないと思つています。

お母様方も「お母さんが恥かしいじゃないの。」だけは言わない方がいいです。そんなこと言うと子供は本當にばかにしますよ。心の中でお母さんのためならなおやりたくないと思つていきますから。

講師 プロフィール

つい先頃、女の先生が生徒に刺されるという事件がありました。中期、子供は大人のお利口さんを見て何となくむかむかして小憎らしくなつてしまふことがあるんです。そしていやがることをして見せる。この時、恐れもしないで知らぬ顔をするというところが、子供をどんなに腹立たせるか知つていなければいけない。その

明治三九年横浜生れ。昭和三年東京女子大卒業、諏訪高女に赴任。十三年東京府立第八高女に転任。戦後新制中学の発足と同時に新制中学教師に転出。以後単元学習など数多くのユニークな実践的指導を重ね、教師、研究者、親にも新鮮で貴重な刺激を与えてきた。「大村はま国語教室」全十六巻他著書多数、近著は「心のパン屋さん」（筑摩書房）

総会報告

—平成12年—
副支部長
中沢優子 (高校9回)

青葉を渡る風も爽やかな平成十二年五月二十六日、日本青年館で東京支部の総会が開かれました。定員をはるかに上回る二七七名の同窓生で賑わいました。

「伝統あつてこそ今日の同窓会を迎えられました」「心より出ずれば再び心に」という宮川支部長の挨拶に始まり、小野校長、清水会長の祝辞をいただきました。なかでも校舍改築の話では、変わりゆく母校に思いをはせました。

窪島先生の講演は、切々とした語りの情景描写に、いわば一幅の風景画を見たような感がありました。戦没画学生に関する話の一節には、「人間の存在」の大切さを痛感し、涙する場面もありました。

記念として「無言館」の収蔵庫「時の庫」に基金をしました。収蔵庫の一角のレンガに東京支部の名前が記されます。

「二葉の歩み」のスライドの上映は、時には声をあげて当時を懐かしみ、会場はなごやかさと熱気につつまれました。

第一部定期総会

- 一、開会のことば 司会 副支部長 千田 洋子 (高9)
- 二、校歌斉唱(一、三、五番) 副支部長 小林 郁子 (高8)
- 三、物故者への黙祷 支部長 ビアノ伴奏 宮川 真知子 (高21)
- 四、支部長挨拶 支部長 宮川 秀世 (高8)
- 五、来賓・客員の紹介 支部長 宮川 秀世 (高8)
- 六、来賓祝辞 小野仁志学校長 清水愛子同窓会会長 小口光子同副会長 高田恭子同副会長 藤森ふき子同副会長 鮎沢 渡先生 諏訪坂勘一先生 野村トモ先生 副支部長 井上 敦子 (高8)
- 七、議事
 - 1 平成十一年度事業報告 支部長 宮川 秀世 (高8)
 - ・「追加・訂正名簿」を発行—パソコンに入力シデータ化
 - ・本部との連携—校舎お別れ会(テートカード・「しらかば」作成)
 - ・同期会活性化の取り組み—資料・パンフレット発行
 - 2 平成十一年度決算報告 会計 松下美智子 (高12)
 - 3 平成十一年度会計監査報告 監査 小浜たか子 (高10)
 - 4 会則改正案 副支部長 小林 郁子 (高8)
 - 5 支部同窓会基金の創設 支部長 宮川 秀世 (高8)
 - ・一般会計、名簿基金、支部同窓会基金の三本立てとする
 - 6 新役員会計監査の承認並びに代表挨拶 支部長 宮川 秀世 (高8)
 - 7 平成十二年度事業計画案 副支部長 千田 洋子 (高9)
 - ・「支部だより」七号発行
 - 8 平成十二年度予算案 副支部長 中沢 優子 (高9)
 - 1〜8全て承認 可決
 - 9 議長解任
 - 八、乾杯 議長 昼食・懇談
 - 八、来賓・客員挨拶 鮎沢 渡先生 十年度支部長 北山 千恵 (高7)
 - 九、講演会 諏訪坂勘一先生 副支部長 野村トモ先生
 - 十、講演 「二つの美術館のこと」 支部長 宮川 秀世 (高8)
- 第三部 茶話会 司会 支部長 宮川 秀世 (高8)
 - 信濃テッサン館・無言館館主 窪島誠一郎先生
- 十一、花束・ポストカード贈呈 高女29回生(十一名) 支部長 宮川 秀世 (高8)
- 十二、スライド上映「二葉の歩み」 記録係 島川真知子 (高21)
- 十三、白き翼 今日の日はさようなら斉唱 旧役員 全員
- 十四、旧役員退任挨拶 副支部長 中沢 優子 (高9)
- 十五、閉会のことば

平成11年度諏訪二葉高校同窓会東京支部会計報告書

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

1 一般会計

(収入の部)			
項目	予算	収入金額	備考
1 前年度繰越金	2,120,354	2,120,354	
2 雑持費	2,000,000	1,939,040	振替 1,343,930 現金 595,110
3 雑収入	200	1,611	預貯金利息
収入合計	4,120,554	4,061,005	
(支出の部)			
項目	予算	支出金額	備考
1 総講習等謝礼	120,000	110,440	
2 会費	200,000	124,008	東洋軒支払・総会次第印刷他・諸経費補助
3 名簿追加訂正版	200,000	200,000	
4 名簿追加訂正版	130,000	105,000	名簿訂正版3000部、12年3月版保管用作成
5 形見通費	20,000	24,415	香典2、弔電11
6 役員通信費・交通費	150,000	113,230	通信費37,000、交通費76,230
7 役員会費	150,000	102,681	定例6回、臨時1回
8 幹事会費	500,000	389,179	3回
9 通信費	350,000	273,760	会報・総会幹事会案内発送
10 印刷費・コピー代	40,000	53,585	封筒印刷、振込用紙印刷
11 事務用品	30,000	49,612	リンダファイル、ゴム印、宅急便
12 渉外	93,000	83,000	本部総会交通費(2名分)、旧役員慰勞会、歴代互副支部長会補助
13 速合	45,000	46,000	東京同窓連、南信同窓連
14 雑費	100,000	63,768	校舎お別れ会
支出小計	2,128,000	1,718,678	
15 次年度繰越金	1,992,554	2,342,327	
支出合計	4,120,554	4,061,005	

2. 名簿基金

項目	収入金額	支出金額
1 前年度繰越金	732,985	
2 平成11年度積立金	200,000	
3 原本パソコン入力代		50,000
4 同窓会基金へ移管		500,985
5 次年度繰越金		382,000
合計	932,985	932,985

3. 支部同窓会基金

項目	収入金額	支出金額
1 基金開設	500,985	名簿基金より
2 利息	500	定期預金解約時利息
3 寄付	10,015	
4 特別収入	101,500	しらかば、テレホンカード売上純益
合計	613,000	次年度繰越金

上記の通りご報告いたします。
平成12年4月5日
会計係 羽 深 喜和子 ◎
松 下 美智子 ◎

上記は会計監査の結果間違いありません。
平成12年5月8日
平成11年度会計監査 田村 修子 ◎
小浜 たか子 ◎

平成12年度 要演 講演

二つの美術館のこと
—信濃デッサン館と無言館—



窪島 誠一郎先生



天折画家の残り香：

はじめまして。私は窪島誠一郎と申します。上田の町外れで信濃デッサン館という美術館を経営しています。

十分な予算も無かったので、私はあの「ゴキブリホイホイ」の殺虫箱を工務店に持ち込み、これと同じものを作ってくれと頼みました。(笑い) 安普請の小さな美術館です。

飾ってる絵と言えば、いわゆる有名な絵が一枚も無い。大正時代、あるいは戦争中、肺結核や栄養失調など今では考えられない病の中で、与えられた命が二十数歳という極めて若い年齢で亡くなっていた絵かきさん、いわゆる天折画家の絵ばかりが並んでい

るのが信濃デッサン館です。そんな美術館が、多少自慢できますが、今年二十一年目を経過しようとしています。

信州の鎌倉と呼ばれる美しい景観、四季咲き乱れる花々、そういう自然の味方があって今日を迎えることができた、つくづく信州の自然に感謝しなければいけないと思つています。

ただ、それだけではないだろう、ここに飾られている絵かきさんは、貧しかったために食べる物も食べられない貧困のどん底で息を引き取つていった。与えられた命はたとえ二十数歳という若い年齢であつても、その若い命をとことん、大好きだった絵を描くということだけに注ぎ尽くして死んでいった。そういつた絵かきの命の熱さというか、魂の残り香というか、余熱というか、そういったものが、彼等が死んだあと、いま生き残っている私たちの心をどこかでノックしている、それが私の美術

館を二十一年支えてくれたのではないか、そんなふうにしていてるのです。神様、あと一日だけ……

それでは、一人だけ、私の信濃デッサン館が一番大切にしている画家、村山槐多をご紹介しましょう。

槐多は明治二十九年京都に生まれ、十四歳で日本美術院入賞、その天才ぶりに、時の大御所、横山大観をして「自分の絵がたまらなくみすばらしく見える」と言わしめたほどでした。

しかし両親が絵の道に進むことに反対したため、十八歳の春京都を出走、上京します。そんな槐多に、当時死の病肺結核が襲つたのです。それから三年間、洗面器に何杯もの血を吐きながらも絵を描き続けます。

大正二年二月二十日、槐多の身を案じた芥川龍之介など幾多の文学者、画家たちが彼を見舞うと布団はもぬけの殻、高熱に浮かされた槐多は、一糸まとわぬ姿となって朝霧を含んだ草原でスケッチブックを抱きしめたまま亡くなつていきました。枕元に小さな詩を残して。

「祈り」というその詩の後

半にはこんな詩があります。……
神様、神よ
あと一日私を生かさせておいてください

あと一日生きてさえいればあと一日生きてさえいれば山が描ける、木が描ける……

槐多が二十二歳という若さで残した絵は、油絵が僅か三十点、デッサンは百点前後といわれており、信濃デッサン館にはその内四十一点が飾られています。

戦没画学生の魂……
さて、実は三年前、この館の分館として、戦没学生慰霊美術館「無言館」をつくりました。

戦場のツユと消えた戦没画学生さんの絵が収められています。彼等の絵を「祈りの画集」で見ながら実に二十年の歲月が流れていました。

この画集をつくった野見山暁治画伯との二人三脚で全国の遺族を訪ね、ポロポロになつた絵を探し求めました。

無言館は、反戦平和の美術館と受け取られがちで、私もそれを否定はしません。確かに無言館はそういうメッセージを持つていることは事実です。

しかし、違うことがあります。戦死した多くの兵隊さん達はこの世に生きている証を、なんの痕跡を残すこと無く亡くなりました。

しかし無言館の五十七人の画学生さんは違います。生身の命は消えても作品に込めた命だけは今も私たちと向かい合うことが出来る。

あの限られた、出征すれば生きて帰つてこれられないかもしれないぎりぎりの時、恋人を、故郷の空を、父や母を描いたのです。彼等の絵は決して戦争のために描かれた絵ではない。彼等の青春の絵です。生きている喜びをただ絵に変えただけです。だから悲しいのですが……

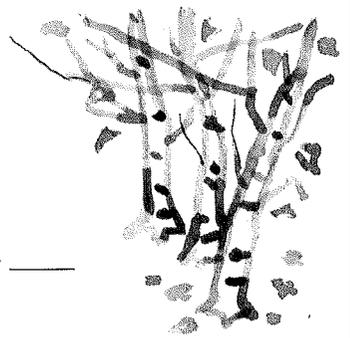
上田の方にいらしたときはどうぞ二つの美術館にお立ち寄りください。

講師プロフィール

一九四一年東京生れ。
一九七九年上田市に天折画家の素描を展示する美術館「信濃デッサン館」を設立、一九七七年戦没画学生慰霊美術館「無言館」を設立した。主な著作として実父水上勉氏との再会を綴つた「父への手紙」
「無言館」他多数。

白樺だより

—— “魂の永久のふるさと” 白き校舎では今も
育くまされどた静かに息づいてます ——



東京支部の灯を消さないで
二葉卒業生なら誰でも

小口方子（高女30回）

諏訪二葉高校同窓会東京支部の幹事として、今年は最高学年となり感無量です。

ふり返ってみますと、東京支部は終戦後、海沼、三井両先生の肝入りで復活したと聞いています。当時の支部長は社会的地位があり、財産と時間に余裕のある人というのが条件だったようです。小平様が名支部長として十年近くその任に当たり、支部の運営に全力をささげ今日の基礎を築いて下さいました。まだまだ続けていたできたかったのですがご病気のため惜しまれながら退任されました。

その後支部長の選出が難航しましたが、結局三十回卒から出すことに決まり経験のない私がお受けすることになってしまいました。それは小平様が築いて下さった組織の中でベテランの小松、田中様両副支部長の協力があること、名越山本様両前副支部長の支部に対する熱意と、今まで続いてきた支部の灯を消さないで、という言葉にほだされたからです。

私が支部長をお受けするにあたり、支部長は二葉の卒業生なら誰でも出来ることと、支部長は二年くらいで次の学年に引き継ぐことをスローガンにしました。今ではそれが軌道に乗り、すっかり立派な支部に成長したことを嬉しく思っています。

私共は今後幹事会には出席出来ませんが、陰ながら東京支部の更なる発展を祈っています。

総会に五十回出席して

永松律子（高女23回）

諏訪二葉高校を卒業して十年近くなります。

桜の美しい頃新学期が始まり、高島小学校と道一つ隔てた一番古い校舎に通いました。

卒業して二年後昭和八年六月十一日東京支部同窓会があり出席、先輩後輩に会い感激しました。この日は、第一回卒業の方からこの年卒業の伊藤藤益子さん二五回卒までの出席でした。

この後戦争等大変な時代に入り、久しぶりの同窓会が昭和二五年にあり出席、その年より平成一二年まで毎年出席しておりますので五十回の出席になったと思います。



昭和8.6.11 東京支部同窓会

昭和二五年五月二五日の同窓会で出席者全員の写真がございます。この頃は全員の写真が写せましたが、年ごとに増えて今では会場一杯の出席者となり感無量です。

「今度こそ」

中村美智子（高10回）

中学校の教員をやっているというと必ずといっていいほど「大変ねー」という言葉が返ってくる。それくらい今の中学生は評判が悪い。

その中学校で三十八年間働きの三月退職した。この間いろいろなことがあったが思い出しは楽しく感動的なことばかりだ。

助け合い学習の中で、頭を寄せ合って教えたり教えられたり、そして少しでも効果が上がると自分のことのように喜べる子供たち。文化祭では教室は様々な姿に変わった。尖石遺跡の縄文人の生活を再現しようと竪穴式住居を作り上げたり、京都二条城のうぐいす張り廊下とふすま絵、欄干が出現したり、アフリカのジャングルが出来上がった。全員が知恵を出し、汗を流して、「やったー、大成功だ」先生のお涙が出ちゃったよー」と、いつも腕白で手に負えない子供たちが生き生きと輝いている姿は本当に素晴らしい、どの場面も私にとつて大切な宝物だ。今私はこんなに沢山の宝物をプレゼントしてくれた子供たちに感謝の気持ち一杯だ。悪いことをしてしまっ、

「先生ごめん」と涙を流し「今度こそ」と何度誓ったことだろう。そしてまた「今度こそ、素直になろう。」と誓い続ける子供たち、そんな中学生が私は好きだ。

今、世の中はこの子供たちにとつて嵐の時代、冬の時代になろうとしている。私はそれがとても心配だ、中学生は今、優しさを求めている。

「音楽療法」との出会い

安藤恵美子（高29回）

ピアノを教え始めてから、随分と長い時間が経ちました。当初は曲をいかに造り上げるか、に目標をおいていましたが、最近ではやや趣が変ってきました。レッスン中に自分の悩みを絞り出すように訴える子供達が増えてきたのです。まだ十才位の子供が生死について深刻に考えていたり、自分の存在感、価値観を語ったり。又記憶障害のお子さんで、「ピアノを弾いたことはよく覚えているので是非に。」と託されたり。親でも学校の先生でもない、という立場が、心を開き易い環境を作っていたのかもしれません。

そうした中で、自分にもっと専門的な知識があれば、より適切なアドバイスをしてあげられるのに、と自分の無力さを痛感し、様々な文献を読みあさっている中で出会ったのが音楽療法です。質の良い音楽を聴くことで、体内にあるNK細胞を非常に活性化させ、心の病はもろんのこと、身体機能、強いては痛までをも癒し治してしまう、という夢のような療法ですが、新分野

として今大変注目されているものです。学会に参加したり、勉強会に出席したりと、まだまだ入口に立っているにすぎない私ですが、研鑽を重ね、知識の裏付けを持ち、少しでも心を癒すサポートができるようになりたいと考えています。時間に追われ、なかなか一歩踏み出すことができなかったのですが、二葉高校同窓会に出席し、先輩の皆様の生き生きとした溢れんばかりのパワーに刺激され、行動に出ることができました。皆様方のように、自分を磨き、力を付けて、これからの生活にいかして行きたいと思えます。

心の貯金箱

稲岡郁子（高16回）

五十代というのは振り返りの年齢でしょうか。今まで日常の中では思いつくことも少なくなっていた二葉時代のことに思いを巡らすと、長い間封印されていた記憶の箱の中から次々と懐かしい情景が浮び上がってきます。

記憶の片らを手がかりに、今まで全く忘れていた三十六年も前の人とのやり取りや感情がそのまま出てくるのに、改めて「心」というものの不

思議さを感じています。

私は、現在カウンセラーという仕事を通して色んな方の人生の「こまに出会いますが」「人は誰もが心の中に遠い風景を持っていてそれに支えられている」と感じる事が多々あります。私の場合それは二葉の後ろに聳える蓼科山や霧が峰の広大な自然、そしてあの二葉の大根坂でしょうか。「思

い出は心の貯金」という言葉のように、利子で大きく膨らんだ思い出の大根坂は、広大な急坂でした。

この坂を、毎日何を考え、何を目指して登っていたのかはつきり覚えてはいませんが現在の私の源は、「都会に出

て本当に自分のやりたい事を捜したい」と考えていたこの頃の三年間にあるようです。中期になった今は、カウ

ンセリングの仕事を通しての体験からも、健康で前向きな気持ちで日々を生活していくのは、実はとても難しい事なのだと、当り前の事の大切さを実感しています。

校時代が過ごせた事で支えられ今の私が形作られたのだと自分の年齢をしみじみと思いついて今頃です。

老人ホーム・スケッチ

田原英子（高14回）

「トイレに便が転がっているよ」と廊下を歩いていた私にSさんが手押し車を押しながら声をかけてきた。

「ほんと、ありがとう」と明るい返事をしたものの今日は早出、私も少々疲れを感じてきた頃で、内心「また一仕事か」とトイレに足を運ぶ。

「あら、まあ、ほんとに小さいのがいっぱい転がっていること」とつい、声を発し、顔を近づけてよく見ると枯葉ではないか、櫛の落葉のようだ」

「Sさん、落ち葉だよ」

「あら、ごめんなさいね。私目が悪いもんだから」

「いいのよ、私も最初はそう見えたんだから」と掃き掃除をして一歩廊下に出ると、前の居室のIさんが車椅子に乗り胸に手を当て

「私、私」と言葉が不自由なのに、にこにこしながら精一杯声を出している。

「ああ、そう。Iさんだったの。焼芋でホームの庭に出たから、

落葉、付けてきちゃったのね」「うん」と微笑みながらIさんほうなづく。

このホームに入所して初めて「焼芋の集い」に参加したIさん、落ち葉の焚き火を見ながら、どんな思いが去来したであろう：

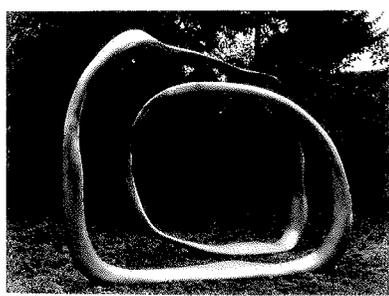
焼芋をお腹いっぱい頂いたIさんの優しそうな笑顔に、居室の電灯の明るさが一層、暖かさを添えた秋の夕暮れでした。（介護福祉士）

彫金オブジェ

井上玲子（高3回）

校舎改築に伴う環境整備として、井上さんの作品が東京支部より推薦されています。

作品例 題名「風の門」



大きさ H245×W380×D210cm
材質 アルミニウム
製作年 一九八〇年
第7回神戸須磨離宮公園現代彫刻展出品作

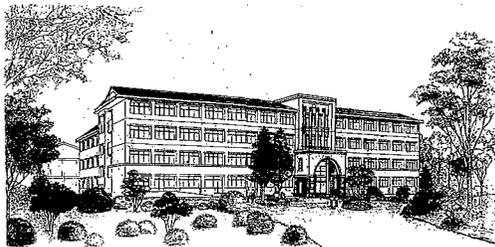
東京支部 トピックス

◆校舎の改築進む

老朽化した校舎が昨年の夏にとり壊され、新しい校舎の建設が二年後、平成十四年完成をめどに進んでいます。

なお、昨年十一月、校舎改築記念事業実行委員会（同窓会、後援会、PTA、学校で構成）

が設立されました。主な記念事業は、正面玄関にステンドグラスの設置、教育環境・施設の整備、記念式典などです。事業費は募金で賄い、募金目標額は三千万円とし、募金金額は一口五千元以上とするなどが決まりました。



◆名簿をデーター化

十二年度の総会で、名簿をデーター化することが承認され、会員の名簿をパソコンに入力しました。個人情報流出の危険を減らすため、個人情報は「二葉」に加工して「東京支部同窓会へのお誘い」を作成し贈りました。若い会員の入会が望まれます。

◆地域でも同窓生の輪を

七月一日、日本青年館に於て平成十二年度第一回幹事会が行われました。

土曜日のため、初めて出席された方も多く、午前中の議事、なごやかな昼食会の後、自己紹介を兼ねて学年会等の情報交換が行われました。

この時、高校五回生の小林さんより、高齢化社会に向けて、住んでいる地域で同窓生の会をつくり助け合いたいとの意見が出されました。核家族、少子化の進む今、皆で考えた心強い提案でした。

「しらかば会」

小渡尚恵（高12回）

東京在住同期生の小さい集まりが「しらかば会」となっており、今年で二八回になります。

今回は、梅雨の晴れ間の一日、小石川のイタリアンレストハウスを貸切りにして、小町谷先生や諏訪方面の方々も参加され、総勢三八人になりました。

もうすぐ還暦となれば白髪や皺は隠せませんが、十八才の乙女顔にかえって「どうしてる。元気じゃあ。」と、卒業以来の邂逅を喜ぶ人あり、お隣との話に夢中の人あり、尽きない話は近くのファミレスのコーヒーでつなぎ、帰る頃にはいつものように、外は暮色になっておりました。

初めて幹事会に 出席して

古田保子（高19回）

暑い日、東洋軒への道を急ぎながら、二葉の大根坂のこなど懐しく思い出していた。四階での幹事会はずでに始まっていて、そつと高校十九回の名札の席にすべり込む。

議事が進むごとに発言される先輩方の名前を役員名簿で確かめ「わ、若い」と驚きの声をあげてしまう。庄巻は自己紹介の時、高女の方たちはじめ先輩方のおまりの若々しさに脱帽。次回は是非友達を誘って出席したい。

金子東洋軒会長ご逝去

平成十一年八月二日、

日本青年館『東洋軒』会長の金子頼子様（高女17回卒）がご逝去されました。

東京支部同窓会は、金子様から長年に亘り会場の提供を受けるなど厚いご好意を賜りました。ご冥福をお祈りいたします。

◆新卒業生の

「同窓会入会式」

卒業式を翌日に控えた三月二日、「同窓会入会式」を本部長出席のもとに行ないました。入会式は東京支部の提案で、平成十一年度より実施

文苑



俳句

卒寿

小幡恵菓子 (高女20回)

今日卒寿惜春の情限りなく
闇の中音のみ聞こえ遠花火
星の夜は肩掛け欲しや秋隣り
訪れしふる里の湖凍りおり

短歌

昭和八年新校舎にて

小島初子 (高女27回)

校庭作る予算なしとて放課後は、たつ、つけ穿きて石ころ拾う
雨の日は豆腐のおから持ち寄りて教室・廊下をひたすら磨く
初めての運動会の清しきよ広き校庭の土踏み走る
この頃は星の明るき宵にして粉雪舞いくるたまゆらのあり

十年かけて私の巡礼

野沢靖子 (高9回)

二〇〇〇年六月、私は善光寺の観音さまと、向き合っている塩田平、別所温泉の北向き観音を参詣いたしました。
秩父、坂東、西国札所の百観音巡礼「満願のお礼参りは善光寺」と、巡礼の道中に教えてのことでした。

えられてのお礼参りでした。

古来西国、坂東各三十三所

最後に秩父を三十四所にして百観音札所としたそうです。

何の下調べもせず秩父という土地への憧れから、一歩を踏み出したのは平成三年正月、姉と二人連れで互いに早速した連れ合いの供養の気持もあ

秩父札所は、分かれ道には「みぎ三番ひだり二番」というような古い巡礼石があり、歩いて解り易く、観音堂は小さくて鄙びていて親しみが持てました。五月末秩父三十四所結願出来た時は、充足感で胸がいっぱいでした。

次は関東地区に散在する坂東札所巡りを始め、休日を利用して電車バス徒歩で巡拝しました。苦しい道のりもありましたが、平成四年秋、合計十六日間かけて坂東札所を結願することが出来ました。

平成五年春、いよいよ西国札所に旅立ち、計画も手作りです。

平成七年一月の阪神大震災や病に倒れてしまった姉の手術や闘病で五年間中断しておりましたが、元気になつて共に平成十一年六月、百観音巡礼満願の日を迎える事が出来ました。感無量でした。

足かけ十年かかりましたが、歴史や風土、季節の風を感じながら歩いた札所巡りは、私の生涯の宝物となりました。

◇ポスト・カード販売

「さようなら白き校舎」「すこやかなの句」各四枚入り三百円。支部役員・幹事までお申し込み下さい。

桜梅桃李

清水久美子 (高18回)

「お姉さん、おっはー！」
「赤ちゃん可愛いね。」等と地域の中で楽しげに声掛けをしているのは次女の和子です。生後間もなく高熱で、落ちて着きと集中力に欠ける。多動性障害を背負って生きることに。今では人間大好き人間です。作業所で働き始めて三年目、今年の成人式の着物姿に地域の方々も祝福して下さいました。外見では分かりにくい障害で、当初周囲との摩擦もしばしば。そんな和子を理解できず葛藤を続けていた私は、「桜は桜、梅は梅、他の花にはなれないし、なる必要も無いのです。風雪を乗り越えて自分の花を見事に咲かせて行けばいいのです。」という私が尊敬する師の言葉で、障害に偏見を持つていたのは、私自身だと気付いたのです。

和子は和子、他と比較する必要はなく十人十色、性格も各々違うように、障害も十色の中の一色だと和子を認められるようになりました。私の心が障害に対する偏見という束縛から自由に解放されると、「和子ちゃんに会うとホッとするわ」

図書紹介

◆「天龍残影」―宮芳平伝

小島初子著 (高女27回)

信州で絵画教育に半生を捧げた画家宮芳平の生涯。時代背景、教育文化の流れも克明に書かれている。

◆現代学校論

青木朋江 (高6回) 他編

① 学校経営と法研究会叢書1

「生涯学習と学校・社会」

② 学校経営と法研究会叢書2

◆高野真美子遺作集 (高20回)

御遺族より寄贈されました。

東京支部活動記録

《平成10年度》

役員 支部長 北山千恵
副支部長 齊藤三千代 宮川秀世 小林郁子
会計 竹内美穂 守谷静子
記録 五味和子 村瀬茂子 西村真由美 五味稔子
監査 池田康子 渡辺さとし

《平成11年度》

役員 支部長 宮川秀世
副支部長 小林郁子 千田洋子 中沢慶子
会計 羽深喜和子 松下美智子
記録 覚本秀子 二階堂なつみ 松岡節子
監査 田村修子 小浜たか子

Table with columns: 年月日, 事項, 備考. Contains activity logs for the 10th year, including meetings, reports, and financial statements.

Table with columns: 年月日, 事項, 備考. Contains activity logs for the 11th year, including meetings, reports, and financial statements.

★ 両年度、幹事会終了後に役員会を開催。★本部及び連合会の内容は、各役員会・幹事会にて報告 ☆幹事会議議事は、役員会の事項を受けて検討や承認を受ける。(紙面の都合上、概略のみの掲載です)

Membership list section titled 《会員》 and 《客員》. Includes names and dates for members and guests, along with a notice box and a section titled 《編集後記》.